

井戸端だより

第45号

発行日： 2004.3.26

発行： 暮らしの学習会

桜の便りもちらほら、今年は例年に比べ少し早いお花見になりそうですが、いかがお過ごしですか。こんな中、世界に目を向ければ、イラク情勢も何ら打つ手がなく、スペインでの列車爆発テロなど各地にテロ事件が拡散している様相で、平和に暮らすことがいかに大変なことか思い知らされる毎日でもあります。

さて、井戸端だより 45号をお送りします。暮らしの学習会の活動も細々とではありますが、12年目を迎えました。今後とも宜しくお願いいたします。

目 次



- ・ 1月総会・会計報告・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2～
- ・ 3月例会報告 エコハウス見学・・・・・・・・ P.3～
- ・ 西条市に住んで・・・・・・・・・・・・・・・・ P.8～
- ・ 杉並区 街並みウォッチング・・・・・・・・ P.10
- ・ 「音」・・・・・・・・・・・・・・・・ P.11
- ・ 雑感・・・・・・・・・・・・・・・・ P.12～
- ・ 重信川の自然をはぐくむ会の報告など・・・・ P.14
- ・ 妊娠・出産という自然体験・・・・・・・・ P.15
- ・ お知らせ・編集後記・・・・・・・・ P.16

1 月例会報告

1月26日(月)午後1:00～ 総会として1年間の活動計画、会計報告を行いました。川之江紙の博物館行き、旧民家の見学、朝倉の果実農園行き、こどもの城行き、今治での出張例会、おさんぽ会、など案が出ました。今後日程を調整してできるだけ実行していこうということになりました。

2003年度(1～12月) 暮らしの学習会会計報告

収入

会費	39,000 円
絵はがきカンパ	4,200 円
カンパ	6,000 円
前年度繰越金	137,276 円
収入合計	186,476 円

支出

用紙代	3,238 円
切手代	5,800 円
本2冊寄付代	2,520 円
イサムノグチ美術館行き	
保険代	3,000 円
高速代往復	7,100 円
ガソリン代	2,999 円
伯方の塩見学	
保険代	3,000 円
高速代往復	5,250 円
ガソリン代	2,000 円
リサイクル工場見学	
保険代	3,000 円
支出合計	37,907 円

収入合計-支出合計=186,476 円-37,907 円=148,569 円

(次年度繰越金)

えひめエコハウス見学

3月9日(火)3月定例会として、『えひめこどもの城』内にある愛媛県体験型環境学習センター(えひめエコハウス)へ、会員4名で行って来ました。

「エコハウス」とは、今、私たちの住む地球で起こっている環境問題、特に深刻な地球温暖化は、人間が大量の石炭・石油を使った結果増えた二酸化炭素が原因だと考えられていて、これを防ぐためには、少しでもエネルギーを節約して生活することが大切で、具体的に体験できるように様々な省エネ技術を導入した建物です。

施設の推進員の案内で建物の見学(詳しくは次頁です)外では紫外線実験太陽光・燃料電池発電を体験しました。

★紫外線実験 紫外線とは地球に到達する太陽光のうち、波長が短くエネルギーの高い光のこと。特に女性が気にするシミ・シワの原因とされている紫外線(UV-B)の測定器を体験。晴れたり曇ったりの天気で測定値の変動があり、肌のためにも油断出来ないことを数値を知ることで実感出来ました。又、アクリル板・UVカットクリームを通す事で測定値が下がるのを見て、太陽光は生物にとってなくてはならないものですが、防御の必要性も実感。

〔紫外線の種類〕

紫外線の種類	波長 (nm)	地上への影響
UV-A	380~320	大気圏でほとんど吸収されずに地表に達する。浴びると肌が黒くなる日焼けをする。ただし、大量に浴びるとDNAに傷がつき、皮膚の老化を早める。
UV-B	320~280	オゾン層の増減により、地上に達する量の変動する。浴びると肌が赤くなる日焼け(サンバーン)をする。大量に浴びると免疫力の低下や、皮膚ガンや白内障を引き起こす恐れがある。
UV-C	280~200	オゾン層によりほぼ吸収されてしまうため、地上にはほとんど到達しない。ただし、最も危険で殺菌光線と呼ばれており、免疫力の低下や皮膚ガン、白内障を引き起こす。

★太陽光・燃料電池発電実験 太陽光パネルで発電したエネルギーで実験用燃料電池を作動させ発生したエネルギーを利用してモーターを動かす実験。究極の省エネ装置に子供に返ったような感動を覚えました。(燃料電池についての資料は別頁添付資料A)

これがエコハウスだ!!

太陽熱利用システム

冬は太陽熱を暖房に、夏は室内の熱を屋外に逃がし、夜の涼風を冷房に役立てます。

展望台

景色がよくて、気持ちいい展望台です。風が吹きぬけてとてもさわやかです。

屋上緑化

夏の建物の温度上昇を抑え、冷房用エネルギーを削減します。

太陽光発電

太陽エネルギーを利用して発電するので二酸化炭素の排出がなく、温暖化防止に有効です。

風力発電

風の力を利用して発電するので、二酸化炭素の排出がありません。

透水性舗装

降った雨を地下に浸み込ませることで、地下水として利用できます。

断熱窓ガラス

屋内に屋外の温度が伝わらないようにして、冷暖房エネルギーを節約します。

電気カー乗り場

ここで電気カーに乗ることができます。

木材

森林の機能を高めるために伐採された間伐材などの木材で建てられています。

雨水

屋根に降った雨水を地下のタンクに貯めてエコハウスの屋上緑化設備や周辺の植物への水やりに利用。

リサイクル製品

壁のタイルやブロック舗装、屋上のデッキにはリサイクル製品を使用。

ペレットストーブ

廃材をリサイクルして作ったペレットを燃料にしたストーブ

エコハウスの施設見学をして、これだけの設備を備えた家を建てるとしたらおいくらかかるのか、省エネモードの生活が基本の家庭じゃないとエネルギーはまかなえないかなどか、考えてしまいました。普段から自分なりの省エネを実践すること、それを無理せず継続できることも大切。最新版の環境知識を入力することもマンネリ生活に刺激を与えてもらえて大切なこと。

「エコハウス」見学で面白く体験でき、いい刺激も与えてもらって楽しかったです。

せっかくだからと園内を散策していると、遠足の子供達の遊ぶ姿を見たり池の向こうに動物園の象がチラッと見えたことに気付いて嬉しかったり。あいあい児童館にも入って結構大人でも楽しく過ごせる場所でした。メンバーのひとりが万歩計を付けていて3000歩以上は歩いていたみたいで、いい運動にもなり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

A. M

利用案内

- 開館時間／午前9時～午後5時
 - 休館日／月曜日(休日の場合は、その翌日)
- 年末年始(12月29日～翌年1月1日)

お問い合わせ

愛媛県体験型環境学習センター
(えひめエコ・ハウス)

〒791-1135 松山市西野町乙103番地1
えひめこどもの城内
TEL・FAX 089-963-4811
E-mail ecolife@dokidoki.ne.jp
<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/ecolife/>



日本の先端技術

世界最高水準 ④

資源小国ニッポンが資源大国にこんな夢を追う。

調査が一月から始まった。経済産業省による三重県熊野灘沖などでのメタンハイドレート掘削調査である。メタンがシャベット状に埋まっているメタンハイドレート

社会到来を見据えている。燃料電池は車での利用が先行しているが、実は、住宅に設置しての利用が本命視されている。将来は数兆円の市場が見込まれるため企業は乗り遅れまいと必死だ。

を研究してきた企業を奮い立たせ、開発を加速化させた。東京ガスは来年、家庭で都市ガスから水素を取り出して発電するコースを分りやすく伝え、省エネへの関心を購買行動にどう結び付けていくか

問題には消費者にどう売

り込むかだ。「電気や給湯そのものには目新しさはない。燃料電池の価値

を分りやすく伝え、省エネへの関心を購買行動

にどう結び付けていくか

燃料電池

エネルギー消費大幅減

は日本周辺の海底に日本の天然ガス消費量の百

年分あるといわれる。調査は、メタンから作り出す水素と空気中の酸素に

「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

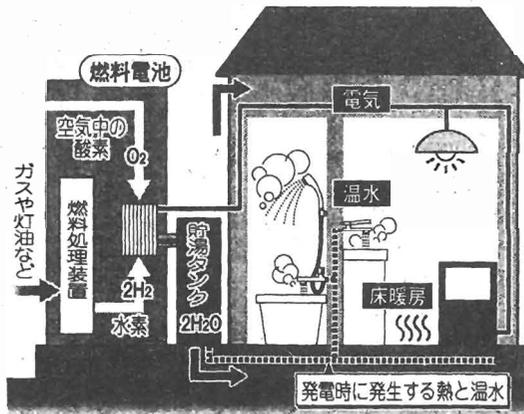
「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

こうした動きに拍車を

い「エネルギー消費を二割削減し、二酸化炭素の排出量も25%カットでき

「燃料電池は資源の新しい使い方を提示する商品。必要な分だけ電気を起こし、熱のロスを抑え、利用者が自身が生活スタイルを見直すなど省エネ意識を育てる可能性さえある」と話す。

家庭用燃料電池の利用イメージ



燃料電池 水の電気分解と逆の化学反応を利用し、水素と酸素から電気を起こす装置。電力とともに生じるのは熱と水だけ、二酸化炭素や窒素酸化物などを出さない。ガスや石油製品から水素を取り出し、家庭で使う電力の大半を賄える小型機は実用化目前。副産物の熱と水を給湯や暖房などに活用することで、エネルギーの消費量も大幅に抑制できるとされる。

当面は、一般家庭で容易に手に入るガスや石油製品から水素を取り出す方式が主流となるが、太陽光などの自然エネルギーで水を電気分解して得た水素をためておき、それを空気中の酸素と反応させて電気を起こせば、環境負荷ゼロの「究極のエネルギー」実現も夢ではない。

家庭用エネルギーの販売をめぐり、電力業界とガス業界が戦いを繰り広げている。キーワードは「安全性」と「経済性」。景気の長期低迷でエネルギー消費が頭打ちの中、限られたパイの争奪戦が過熱している。

ガス 家庭市場争奪戦 電力

安全性

オール電化でクリーンに

電力業界が推進するのは、家庭で使うエネルギーすべてを電力で賄う「オール電化住宅」。照明や空調はもちろん、給湯や調理器、床暖房まで完全に電化する。ガスや灯油の炎がない安全でクリーンなイメージに加え、割安な深夜電力で湯を沸かすなどして、月々の光熱費を抑制できるのが強みだ。



オール電化の必需品、最新式の電磁誘導加熱（IH）調理器は、若年層にも人気だ—東京・汐留の松下電工

今年からは一転、積極攻勢をかけ、三年後のシェア15%を目指す。全国的な普及の背景には、ガスこるる並みの火力をもつ電磁誘導加熱（IH）調理器の開発や、外気の熱を効率よく取り入れる「ヒートポンプ式電気給湯器」など、省エネ性の高い機器の実用化がある。住宅の高気密、高断熱化が進んで室内の空気の質が重視されるようになり、高齢化で火災の心配が少ない電化製品が好まれるなど、時代の流れも追い風だ。

一方、ガス業界にとっては、利幅の大きい家庭用ガスの元栓が次々と閉ざされる事態は最大の脅威。都市ガス各社が「対抗商品」として期待をかけるのは家庭用ガスコージェネレーション（熱

東京電力は大手不動産

八社と共同で「次世代電化マンション研究会」を発足。年初から都内に新システムの展示場を開き、売り込みに懸命だ。

住宅に占めるオール電化の割合は本年度末で5%程度。既に25%超のシェアを握っている中、生活エネルギーグループマネージャーは「首都圏ではパブル期まで供給力不足が懸念され、むしろ家庭に節電を呼び掛けていた。トラブル隠しに伴って昨年、当社の原発が一斉停止したことも営業上厳しかった」と説明。

経済性

熱電供給システムに期待

大阪ガスの芝野博文社長は「ガスと電気の利用には適度なバランスがあり、一方ですべてを賄うのは無理がある。最後は消費者の選択次第だが、発電所でガスや石油の火力を使って起こした電気を再び熱に変えるのは非効率的だ」とガスの経済性を強調している。

西条市に住んで

重信町から約40キロメートル西(車で約一時間)にある西条市は、南は西日本の最高峰である標高1982メートルの石鎚山、北は瀬戸内海に面しています。現在の人口は約6万人、11月に東予市、丹原町、小松町と合併すると、約12万人の市になるそうです。

あしかけ20年ほど住んでいた重信町から引っ越して来て、8か月たちました。初めは、とまどうことも色々ありましたが、「住めば都」だんだん西条の良い所もわかってきたところです。

西条は「水の都」と呼ばれるように、石鎚山系を源とする清らかな地下水の自噴井が市内の各所にあり、これらは「うちぬき」と呼ばれています。

市内の中心部の道路脇にも何カ所か「うちぬき」があり、ポリ容器を持った人達が遠くから車で水を取りに来ていて、いつもにぎわっています。あんなに埃っぽい所の水を持って帰って大丈夫なのかしらと少し心配になりますが、「うちぬき」の水は昭和60年に環境庁の「日本名水百選」の一つに選ばれ、平成7、8年には全国利き水大会で日本一おいしい水に選ばれた程の名水なので、人気があるのでしょう。

西条の簡易水道の普及率は約24%で(下水道の普及率は約75%)、多くの家庭で昔から「うちぬき」を生活用水に使っています。

私の家でも、家を建てるときの最初の工事は、「うちぬき」の水を確保することでした。江戸時代の中頃から昭和20年頃までは人力により鉄棒を地面に打ち込み、その中へくり抜いた竹を入れ、自噴する地下水を確保していたようですが、現在は、鉄パイプの先端を加工し、根元に孔を開けたものをコンプレッサーによるエアハンマーを使用して、地下水層まで打ち込み、地下水を取水しています。そのまま飲んでもおいしいし、御飯やコーヒーの味も違うように思います。その上、水道代はいりません。しかし、無料とは言え、この名水をトイレにも使っているのは、いまだに申し訳ないような気がしています。

また、私が住んでいる所は、西条の中でも特に自噴量が多い地域なので、どの家も庭にコンクリート製の「ながし」があり、水を出しっぱなしにしています。その水の音がいつも聞こえるので、こちらに引っ越したばかりの時は、どこかで、水がもれているのではないかと、すごく気になったものでした。四季を通じて温度変化のない水は、夏は冷たく冬は暖かく感じられ、野菜を洗ったり、庭仕事に使ったりしているようです。うちは当初、庭用の「うちぬき」は作っていなかったのですが、近所の方達に「折角うちぬきが出る土地なんだから早く作った方がいいよ」と言われ、先日ようやく庭のための「うちぬき」を作りました。朝9時頃から作業を始め、お昼過ぎに、約20メートル打ち込んだ鉄管から水が噴き上がって来ました。今が一年で一番水量が少ない季節だそうですが、それでも、かなり高くまで噴き上がっています。大雨の後などは、水があふれることがあるそうで、もったいないので、水量調節のバルブをつけてもらいました。

しかし、西条にも次第に大きなマンションが建つようになり、水事情も少しずつ悪くなっているようです。今後は地下水保全条例などで規制されていくことになるでしょう。簡易水道も徐々に広がっているようです。いつまでも「うちぬき」の水が絶えることのないように、一人一人が水の大切さを自覚して使わなければいけないと思いますが、西条にはまだ「節水」と言う言葉はないようです。

さて、引っ越して、一番とまどったのは、ごみ収集の違いだったので、西条の収集の仕方をご紹介します。

半年ごとに市役所からごみの指定袋と、粗大ごみ用の処理券、ごみカレンダーが配布されます。分別は、1)燃えるごみ(週2回)、2)燃えないごみ(週1回)、3)粗大ごみ・廃乾電池(月一回)、4)古紙(月一回ただし10月はお祭りのためなし)、5)ガラス瓶・ペットボトル(月一回)の5種類で、ごみカレンダーにはそれぞれの回収日を色分けしてあります。

燃えるごみ用の指定袋は不透明な白で、重信の物より少し小さく、やぶれやすいのが難点です。そしてプラスチックごみも燃えるゴミとして出すことになっています。重信ではずっと厳しく分別してきたので、分別せずに出すことに、初めはすごく抵抗

がありました。

燃えないごみ用の指定袋は透明で、缶も分別せず、一緒に出すことになっています。回収後、分別しているのかもしれませんが、私としては缶は資源ごみとして出したいので、スーパーの入り口に設置してある回収するボックスに、持って行くようにしています。重信のスーパーでは、食品トレーのボックスはいつもあふれていましたが、こちらでは、あまり入っていないので、分別収集はあまりされていないのではないかと思います。

また、いずれの指定袋にも地区名と名前を書く欄があるのですが、驚いたことにほとんどの人が無記入です。それでも、回収してくれるので、ますます書く人はいないような気がします。

ガラス瓶とペットボトルの回収は毎月第四水曜日。回収日の前日にトラックで回収キャリアが、各ごみステーションに4個ずつ配られていきます。ペットボトル用に一個と色別に分類する瓶用3個です。大きなトラックの上からキャリアを落としていくので、大きな音がして、初めはびっくりしました。業者が回収しているということですが、どの様な委託をうけている業者なのか、市役所の担当の窓口で聞いてもわかりませんでした。

古紙の回収は月に一回だけで、これでは新聞や段ボールがすぐたまってしまいます。しかも、回収日がお祭りと重なる10月は回収なし。重信では週一回だったので、余計に不便に感じます。

粗大ごみは、シールになっている処理券に名前を書き、ごみに貼って出します。

西条市は、数年前から、生ゴミ処理機を購入すると、2万円の補助を出してくれます。以前から欲しかったので、私も早速購入し使っています。生ゴミがカチカチの乾燥物となり、庭に埋めれば肥料になるので、便利です。

西条と言えば、西条祭りが大変有名ですが、その他の私の気に入っている所を紹介します。

まず、お花の名所は色々あって、梅は「市民の森」、桜は武丈公園・「市民の森」や黒瀬ダム、藤は有名な観音堂、ツツジは湧き水にそっての散策コース「アクアトピア」。私はまだ見ていませんが、秋は黒瀬ダムの紅葉もきれいだそうです。

それから、加茂川河原で8月中旬から10月上旬に行われている芋炊きは、うどんよりラーメンにあう鶏ガラベースのダシ。地元の方に倣って、ラーメン、ワタリガニ、天ぷら類などを持っていきます。川風に吹かれながら、夕闇の広がりとともに変わっていく山々を眺めながらいただく味は格別です。

また、石鎚山山頂まで登るのは大変ですが、成就社までなら、ロープウェイを使って簡単に行くことができます。このロープウェイは年中無休で、標高455メートルの下谷駅から標高1300メートルの山頂成就駅まで、わずか8分で運んでくれます。そこから、15分も登れば成就社です。成就駅からのスキー場用のリフトも年中無休で、眺めがよくスリリングでお勤めです。気温は100メートル上がるごとに約1度下がるそうですから、平地とはいつも10度以上違っていることになります。3月初めの小春日和に登ったときは、ロープウェイを降りると一面の銀世界で、春光に輝く樹氷を見ることができました。

また、歴史的遺産も多く、市民の散歩コースになっている八堂山の弥生時代の高地性遺跡をはじめ、伊曾乃神社、保国寺、西条藩陣屋の大手門やお堀など興味深い物がたくさん残っています。その陣屋跡にある郷土博物館には西条にまつわる様々な物が展示してありますが、展示の仕方が雑なので、「宝の持ち腐れ」のようで残念です。私は、西条市が輝安鉱の世界的に有名な産地だったということ、ここで初めて知りました。

小さな町ですから、一日あれば、色々回れます。その上、西条祭り以外は、どこも入が少ないのでゆっくり楽しめます。ぜひ、一度遊びにいらしてください。西条市のホームページ (<http://www.city.saijo.ehime.jp/>) には写真もたくさんありますので、参考に見てください。

(K・T)

杉並区 街並ウォッチング

愛媛産ノーワックスいよかん1個 98 円 (もう終わりです)、愛媛産タイ (養殖) 刺身 580 円、店頭でこんな値札を見ると思わず顔が綻びる。

この1年東京に住む子ども達を度々訪れた。

ここ杉並区和田は、区の東の端、新宿西口より半径 5 キロ圏内にあり、青梅街道と環状 7 号線が交差した一角にある住宅地である。教育・文化・スポーツ施設、児童・高齢者・障害者の福祉施設などの市民サービスは行き届いているようだ。

文庫判東京都市図を片手に万歩計を付け街並ウォッチングに出かける。車がやっと離合出来る程の道路の両側には、緑を上手に配置し、狭いながらも一工夫した洒落た建物が続く。季節の花々が彩りを添え、どの家も庭の手入れが行き届き、家のまわりの掃除をしている人をよく見かける。住む人々のゆとりを感じる。姓の異なった表札の家も多い。桜湯という銭湯もある。お地蔵さんもいる。ウサギ小屋も覗いてみる。江戸開府 400 年の旗めいている和田商店街に入る。間口 2 間ばかりの軒を連ねる 50 軒余りの店が商いをしている。コンビニ 2 軒、小型スーパー1軒に目新しさを感じる。シャッターを下ろしたままの空店舗もある。

ねじ式の漬物器を買った。着物姿の上品な奥様が「美味しいお漬物を作ってくださいね」と笑顔でお釣りを渡してくれた時、とっってもいい買い物をした思いがした。「おから下さい」「どの位」「まあ適当に・・・」店頭のバケツのおからをビニール袋に押し込んで、「はい 30 円」テンポよい商店主の声が響く。

環 7 通りを横切って、日蓮宗の本山妙法寺へ行ってみる。境内の大きな 3 本の松にはまだ雪吊りをしたまま、傍では寒緋桜が遠慮がちに下を向いている。特別な想いでお参りをする。祖師堂・書院・仁王門・日蓮聖人像など都指定有形文化財が多数あるこの寺の裏には、広大な墓地がある。折からのお彼岸ということもあってか、どの墓にも花が添えられている。それぞれのお墓の敷地には、つげやつつじなど一対で植えられているところも多い。真紅のボケが満開のお墓もある。その横に黄水仙も咲いている。卒塔婆の多さに驚き戒名にも興味を持って見たが、ところ変われば・・・である。日蓮宗の総本山身延山へ出かけるキャハン姿の父を想いだす。妙法寺に来ると父に出会えたようで心が落ち着く。有吉佐和子の碑がある。幼い頃遊び場だったそうで、山田五十鈴・杉村春子等が発起人になっている。

妙法寺から 5 分も歩けば、どっしりとしたコンクリートの塊がいくつも建っている。立正佼成会の大聖堂と大講堂、普門館、信者の宿泊施設、そして、その周辺には、関連の施設幼稚園・中・高・大学、看護学校、病院、図書館、印刷工場まである。

そこから 3 分も歩けば、今度はキリスト教系の救世軍ブース記念病院がある。

これらを一巡して 40 分、5,000 歩足らずが、東京での私のリフレッシュ散歩コースである。

(3月20日東京にて S・I)

「音」

鳥の囀りで目覚める朝、

薄目をあけると、爽やかな朝の光に包まれている。すると、鳥の声が間近に聞こえてくる。不思議と頭がスッキリしてくる目覚めだ。

歳を重ねる毎に少しずつ自然の音に耳を傾ける時を多く求める様になっている。何を考えるでもなく、ただ耳が音を探している様な時だ。

少し風が吹いている時は、そこそこに『サワッ』と物の動きから発せられる音を聞く。土の上に、木の葉や枝に、水面に、時間差をかけながら風が音を起こしていく。

風のない時は、土や木や水の内側からうごめく音、というか気配を感じる。

盲目の宮城道雄は、随筆集の中でこう書いている。

・・・私はある深山へ行ったことがあるが、その時、しんとした音のない音というような物を感じた。

川なども上流の激しい流れの音から、中、下流と流れの音の変わるにつれて景色の変わってゆくことを私は想像する。海辺の波も岩を打つ音と砂地にどうどうと寄せては返す音とを聞き分ける私も面白い。

私はときどき天地全体の音というようなものを耳で想像してみることがある。私の明け暮れ、私の生活は大方、耳であるが、耳で味わう生活もまた、楽しいものである。 (1949年古巣乃梅) より

普段の生活には様々な音が満ち溢れている。私は時として音に無神経になってしまう。そんな私にとって、春のこの時期、山あいの里にある夫の実家で過ごす時間は、耳のリハビリが出来る貴重な時である。今年はどうな音を探せるだろう。

(R・D)



雑 感

今治で迎える三度目の春は、“春一番”に始まる台風並の強風、初夏を想わせる陽気、真冬に戻ってしまった様な冷え込みと変化が激しく、日々天気予報から目が離せません。それでも日毎に街並みは明るい春の花に彩られ、道の隅のほんの少しの土に根をおろしたスミレの蕾も大きくなり、空地の大きなカリンの木が新芽の緑にうっすらとピンク色がまざってきました。彼岸の入りには早々と宇和島から桜の開花が伝えられましたが、お中日以降の冷え込みにびっくりしていることでしょう。

重信での最後の数年、私は二十年振りに運転する様になり、運転は好きになれませんでした。それなりに便利で、車は無くてはならないものになりつつありました。けれど、今治に移って最初の一年、運転技術の未熟さに加えて生来の地理音痴、両親の介護の為ほとんど今治にいなかったこと等から、運転するきっかけを失って、ひたすら歩く生活が始まりました。

我家から、マーケット、銀行、郵便局、薬店、書店等が、徒歩十数分の所に各々が数分離れて点在しています。一巡すると急いでも一時間以上かかります。ですから、母を、父を、見送って事務処理も終わり、今治に落ち着くことが出来るようになった頃には、“早く道を覚えて運転を始めなくては”と思うようになりました。ところが昨年、梅雨前不注意からの怪我で右脚をギブスで固定されての一月で再び運転から遠ざかって、歩く生活にもすっかり慣れてしまって今に至っています。

歩くことで季節の移ろいを五感のすべてで実感することが出来、いつのまにか長年悩まされてきた肩凝りをすっかり忘れてしまっていました。おかげで今年は山の様な土筆のハカマとりも苦になりません。そして何より、歩いていると様々のことをゆっくり考える時間を持つことが出来ます。今歩きながら思うのは、“人間はどこへ行こうとしているの？”“どうありたいと思っているの？”ということです。世界中が混乱し、憎みあい、争い、傷つけあい、病気に脅え、食材に不安を持ち、守るべき親が子供を殺傷し、あの手この手の詐欺が横行している今、私達は不信と不安といらだちの日々を過ごしています。こんな世の中を反映して、癒しや健康への開運商品が巷にあふれています。幸い私の住んでいる地区は、割合歩道が整備されていますので、考えごとをしながら安全で

す。それでも、我家からしばらくの間は車をよける時、蓮田に落ちそうになる所もあり緊張します。我が家から一番遠くにある書店への歩道は道幅も十分に広く、車道との境には大きな街路樹が植えられているので夏の日射しも車の排気ガスもあまり気になりません。歩道と家並みの境は水路で、もうすぐ水が入ると又鯉や小魚を楽しむことが出来るでしょう。

そんな私のお気に入りの道ですが、怪我をした時は杖の役も兼ねて買物用のカートを押しての日々が始まりました。普段歩いている時には気にならない、ほんのわずかの段差や車の出入りの為の路面の傾斜にとても苦労しました。私が購入したカートは荷物が沢山入ることだけを念頭に選びましたので、疲れた時座ることが出来ず、木陰にベンチがあればどんなに良いだろうと思いました。住宅地の中の道は傘をさしたり、カートを引いての歩行は困難を極めます。それでもこのカートはなかなかの優れもので荷物が重くても平気なので今も手放せないでいます。

ここ数十年高速道路は急速に整備され、移動の時間がずいぶんと短縮され便利になりました。でもこれからは、歩くことのできる街造りにもっと心を砕いて欲しいと思います。住宅地の中の細い道は歩道であることを優先し、住人以外の通り抜けの車は制限したり、一方通行を増やすことも考えていい時期だと思えます。人間にとって歩くスピードで移動し、風を感じることは自然で大切なことに思えます。そんなスピードの中でしか見えないもの、感じる事ができないことがあります。歩きたくなる様な素敵な生活道があれば、車椅子の人、乳母車を押すお母さん、子供達、散歩の人、様々な人が道ですれ違い、挨拶を交わし微笑みが生まれるでしょう。人の目が増えれば今より連れ去りとか通り魔等の犯罪も減ると思えます。私達人間は自然のごく一部にしか過ぎないのに、人間以外の自然を科学の力で人間にだけ都合の良い様にねじふせようとし、そこから様々の歪みが生じている様な気がします。自然からの病災害から身を守る科学はもちろん必要ですが、もう少し自然と融けあって生活できたら、もっと心がやわらかく優しくなれる様に思えます。

そんなことを考えながら今日も私は歩き、店舗の近くに犬を繋ぐ設備があれば、と大五郎ママの夢は広がります。大五郎は只今1歳1ヶ月、40kg、ますますやんちゃで甘えん坊です。

(K・O)



重信川の自然をはぐくむ会の報告

1月20日に「第4回重信川の自然をはぐくむ会」がありました。現地での具体的な活動は、まだです。今のところ次のような計画がかたまりつつあります。

- ・ 河口部のヨシ原、河畔林の再生
- ・ 支川傍示川の水質改善
- ・ 古川霞の再生
- ・ 松原泉の再生
- ・ 広瀬霞の再生
- ・ 開発霞の再生

身近な水環境の全国一斉調査について

市民団体（みずとみどり研究会）と国土交通省が連携して、多くの市民が統一的な調査マニュアルに基づき、身近な水環境を同一日に全国一斉調査します。これに参加協力したいと思います。3月中に調査地点を連絡することになっていきますので、調べてみたい地点を菊地までご連絡ください。

河川整備基金助成事業について

「**趣旨**今後の河川整備は、健康で豊かな生活環境と美しい自然環境の調和した安全で個性を育む社会の実現に向けて、流域の視点にたって人と川の関わりをより強めることを目標として進めることが必要となっています。河川整備基金助成事業は上記の目標に基づく国・地方公共団体の河川整備事業等の効果的・効率的推進に寄与することを目的として、河川・ダム・砂防・海岸等に関わる多様な活動に助成する事業です。」・・・16年度募集要項より・・・

このような制度がありますので、今年はもう締め切りが過ぎてしまいました。将来何か活動する時には参考になると思います。

自然と共に生きる会について

川内町で最近組織されたNPOです。表川の河川敷に造られつつある公園を、子どもが遊べるような自然な林にしようと活動しています。コンクリートと芝生ばかりの公園ではなく、昆虫の棲む林です。興味のある方は、ご案内します。

妊娠・出産という自然体験

昨年の10月、初めての出産を経験しました。分娩台のないところでの自然なお産を望んでいたため、松山の助産院を選び、布団の上で産みました。今回のことで強く感じたことは、妊娠・出産というのは、自分という自然を体験する興味深い出来事だということです。

妊娠中はつわりがひどかったのですが、最もつらかった頃には暗いところに1人でいたくて、音に敏感になっていました。動物としての感覚が研ぎ澄まされたのかもしれないと思います。また、水分しかとれない時期が何度かあり、体重がどんどん落ちたのですが、そんなときには、「哺乳類として妊娠の準備を怠っていたなあ。妊娠前に栄養を蓄える他の野生生物に見習うべきだったなあ」と思いました。

さらに、胎動が始まってからは、生きものが体の中にいることを確信でき、自分が動物であるという感覚がより強くなってゆきました。この感覚が強くなるにつれ、自然な形でお産をしたいと思うようになってゆきました。せっかく動物体験をしているのだから、出産の時も動物らしく産みたくなったのです。そこで、病院の明るい部屋で、複数の人に囲まれての出産ではなく、自然体でいられそうな助産院での出産を選びました。

実際、助産院での出産の時には、部屋は暗く静かで、陣痛の時から出産が終わるまで同じ布団の上であればよく、とてもリラックスできました。そのためか、たいへん安産でした。ひたすら自分の体の声に気を配り、姿勢や呼吸をそれに合わせることはできなかったのですが、それが動物的によかったのかもしれない。妊娠中に学んだ出産の経過や骨盤の動きなどを考えながらの出産になると予想していたのですが、出産とはそういうものではありませんでした。けれども、振り返ってみると、骨盤の動きを妨げることのない姿勢、重力をきちんと使えるような姿勢（余談ですが、分娩台は骨盤の動きを妨げ、赤ちゃんの通り道を狭くしてしまい、重力も使えないのでつらく、危険なのだそうです）をとっていましたから、体の声をきいて、それに正しく応じれば、自然体で産めるということなのではないかと思えます。

そして現在は、哺乳類らしく、母乳のみで育児をしています。ミルクは牛の乳ですから、ヒトはヒトの乳で育てようというのが基本的な考え方です。結局、自然（この場合は自分の体や子ども）の時間に合わせて暮らしてゆくことが、心地よい暮らしにつながってゆくのだと強く感じた1年間でした。

(T. S)

見直してみませんか 私たちの生活 心がけてみませんか

一人ひとりの温暖化対策!

一人ひとりの地球温暖化対策

取り組みの例	一世帯当たりの年間CO ₂ 削減効果	一世帯当たりの年間排気量に対する削減割合(%)	一世帯当たりの年間節約効果
1 冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	約31kg/年	0.5%	約2,000円/年
2 週2日往復8kmの車の運転をひかえる	約185kg/年	3.1%	約8,000円/年
3 1日5分間のアイドリングストップを行う	約39kg/年	0.7%	約2,000円/年
4 待機電力を90%削減する	約87kg/年	1.5%	約6,000円/年
5 シャワーを1日1分家族全員が浴す	約65kg/年	1.1%	約4,000円/年
6 風呂の残り湯を洗濯に使います	約17kg/年	0.3%	約5,000円/年

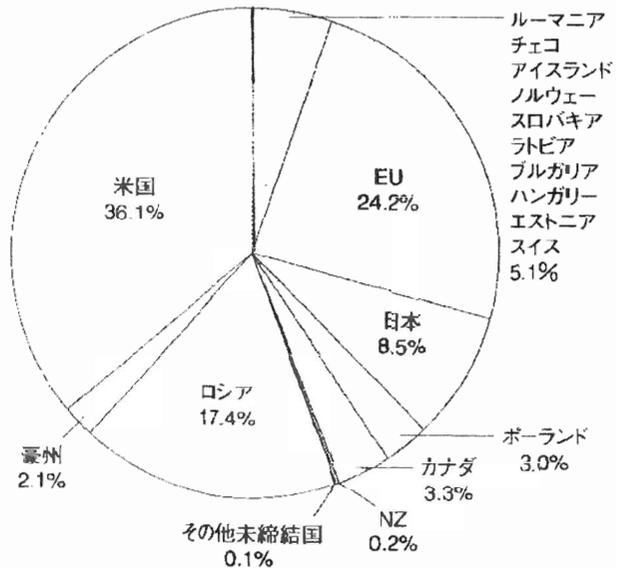
7	ジャーの保温を止める	約31kg/年	0.5%	約2,000円/年
8	家族が同じ部屋で団らんし、暖房と照明の利用を2割減らす	約240kg/年	4.1%	約11,000円/年
9	買い物袋を持ち歩き、首包装の野菜などを選ぶ	約58kg/年	1.0%	-----
10	テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす	約13kg/年	0.2%	約1,000円/年
合計		約766kg/年	13.0%	約41,000円/年
我が国全体での効果		約34.7百万トン/年	我が国の温室効果ガス排出量(1990年)を2.8%削減。	

(出所) 環境省資料より抜粋

忘れていますか、「京都議定書」

日本は、2002年3月に批准し、2003年11月現在、119カ国とEUが批准しています。批准した先進国の排出量の割合は44.2%です。現在、アメリカは離脱していますが、ロシアが批准すれば、発効する予定です。

1990年の先進国の二酸化炭素排出割合



〔出典：国連気候変動枠組条約事務局が集計・公表しているデータに基づき、環境省地球環境局が作成〕

〈京都議定書の発効要件〉

以下の両方の条件を満たした後、90日後に発効。

- ①55ヶ国以上の国が議定書を締結
- ②締結した先進国の合計の二酸化炭素の1990年の排出量が、全先進国の合計の排出量の55%以上

今後の予定

- ・ 4月定例会 4月5日(月) 川之江紙の博物館見学予定
朝8時半 林宅集合 8人乗りの車で行きます。参加者は4月3日までに林までお申し込みください。

- ・ まだ実現できていない民家の探索 (犬伏先生に解説していただいたの)
- ・ 出会い塾も久しぶりに開いてみたいなあ
- ・ 5月頃 おさんぽ会も.....
- ・ 6月は今治在住の会員のうちで出張例会を開きたい.....
(皆さんのご意見をお寄せください。)

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000円/年 購読会員 1000円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

今年9月、重信町と川内町が合併し新市「東温市」が誕生します。最近になって財政的な問題も出てきているようです。それに、合併特例債は借金です。後で自らの首を絞めないように慎重に考えてもらいたいと思います。それにしても、慣れ親しんできた「重信」の名が消えてしまうのは寂しい限りですね。(T・H)